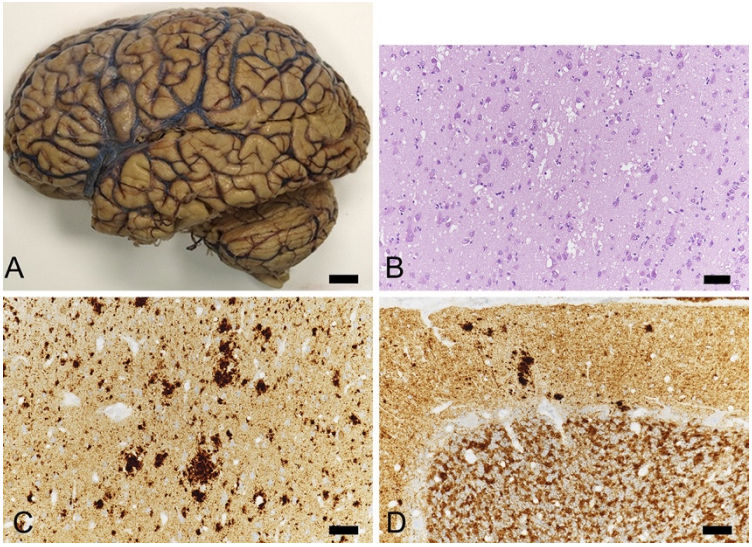
プリオン病のリソース構築

研究分担者：埼玉医科大学国際医療センター　高尾昌樹

- 平成31年度　7例のプリオン病の病理解剖を施行（遠方からの依頼も増加）。
- 研究使用可能なプリオン病のリソースは65例。
- 臨床診断と病理診断との解離症例も報告。

- 地域でみられていた認知症患者で、臨床診断がアルツハイマー病も疑われた。
- 病理診断はクロイツフェルト・ヤコブ病。
- 前頭葉（タイプ２）と小脳（タイプ１）で沈着するプリオン蛋白の性状が異なっていた。



JMA Journal. 2019, 2: 148-154

解　説

1. 病理解剖を広い地域から引き受けることで、プリオン病のリソース構築を継続。
2. 臨床的にはプリオン病以外の疾患も考慮された症例でも、病理解剖によって確定診断に至ると同時に、特殊な病理型があることを日本医師会の雑誌に報告。
3. 多くの認知症患者が、地域の家庭医によりみられていることもふまえ、プリオン病の存在をひろく啓発することが、「診断基準や診療ガイドラインの策定・改訂」にとっても重要。